

日本史 B 学 習 指 導 案

岩手県立一関第一高等学校
教諭 藤田知彦

- 1 指導日時 平成18年10月25日(水)5校時(45分間)
- 2 指導対象 第2学年AC組(普通科/選択授業)23名[男子5名、女子18名]
- 3 使用教科書 『詳説日本史』(山川出版社)[資料集:『最新日本史図表』第一学習社]
- 4 単 元 主題学習 『修学旅行レポート』に基づく日本文化史の考える授業
- 5 指導目標
 - (1) 修学旅行のレポートをもとに、他の生徒の発表を聞くことを通して、今まで学んできた文化史等の事項に対する理解を深めさせる。
 - (2) レポートや資料集などをもとに「法隆寺の謎」などについて考察させ、歴史への興味・関心を高めさせる。
- 6 評価の観点と規準
 - (1) 関心・意欲・態度: 提示された課題に対して、積極的にグループ討議に参加して授業に取り組むことができる。
 - (2) 思考・判断: 仏像や寺院などに関して、今まで学習してきた知識を使って提示された課題を考えることができる。
 - (3) 資料活用の技能・表現: 資料集を活用して、「法隆寺の謎」などに対する自己の考えをまとめることができる。

過程	学 習 内 容	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	評 価 方 法
導 入 5分	事前に課題指示	修学旅行の見学先について、資料集やインターネット等で調べ、まとめて提出。 ・レポート集に関して概要を理解する。	提出されたレポートをおおまかに教科書で学ぶ時代順に並べて生徒に提示	レポート: 点検し、後日返却
展 開 38分	(1) レポート 1ページ 「時代と寺と仏像」 について	レポートを作成した生徒が研究の成果を発表する。 「仏像の輪切り」の図【黒板に貼り付け】で、各時代の仏像の形の概要を再確認する。 上記の図を参考に5つの「仏像シルエット」を時代順に並べ替え、時代ごとの特徴を再確認する。	レポート3ページの仏像の胎内に様々な物を入れる習慣についても言及する。 適当な大きさの図を用意する。 生徒を1名前を出して、時代順に並べ替えて貼らせる。	関心: 集中して発表を聞くことができる。 態度: 積極的に協力する。
	(2) レポート 2ページ 「法隆寺・四天王寺」について	レポート作成生徒が研究の成果を発表する。 法隆寺中門は「中央に柱をもつ特異な構造」であるが、なぜここに柱があるのか、 グループ討議(平均4人×6班) を行う。 代表者が発表する。 法隆寺の五重塔に関連して、塔の起源であるインドのストウパの写真を見て、その形によく似た日本にある塔を資料集から発見する。 法隆寺再建論争に関して、金堂の釈迦三尊像には火災の後が無いと言われるが、どういう事情が推察されるか、 グループ討議 する。	四天王寺の伽藍配置について補足説明する。 定説は無い旨生徒に伝え、自由な発想で考えることを促す。 世界史教材のサンチーのストウパの大判写真を利用する。 資料集の見返し部分の「年輪年代測定法」の部分などにも着目させる。	関心: 集中して発表を聞くことができる。 意欲・思考: グループ討議に積極的に参加し、自らの考えを述べることができる。 表現: 説得力のある内容を発表できる。 資料活用の技能: 資料集の中から類似の塔を見つけられる。 意欲・思考: グループ討議に積極的に参加し、自らの考えを述べることができる。
まとめ 2分	修学旅行に際しての心構えについて	漫然と見学して無為な旅行にせず、事前研修の成果を活かして有益な旅行になるように呼びかける。		

参考図書: 『仏像の秘密』(山本勉著 朝日新聞社)、『法隆寺の謎を解く』(武澤秀一著 ちくま新書)